



コラム

井路川の思い出

戦後の一時期、古市小学校から清水小学校の給食を運んでいました。2人1組でバケツを持って、井路川沿いの細い道をよく歩きました。

森小路の家の前は井路川でした。

よく竹竿で棒高跳びのまねをし、どぶ川を飛び越えましたが、うまく飛び越えられたら近道が出来たと喜んでいました。…が失敗し、川にはまり母親にしかられました。

しかし、今日のように化学物質に汚染されたりではなく、かえる、青大将等が生息し、イチジク、ビワの木などもありました。玄関が川に面した家は、各家ごとに木の橋が渡してあり、国道1号をひとつ東に入るだけでのどかな場所でした。

昭和24年(1949)、今の古市小学校(当時は分校)の東側にある井路川が暗渠工事されているのを見て、早く家の前のどぶ川を埋め立てて欲しいと考えていました。



旭区と川～今の旭区が変化したことを知りました。

高殿へ昭和50年(1975)頃に移り住むことになり、現在の旭区のことしか解らないので、昔の町を知りたくてこの会に参加させて頂きました。

この街は淀川によって発展。風水害にあたりしが京街道や太閤堤に守られてきました。

明治から大正にかけて、淀川の大改修によって淀川が安定し、農園地帯となり江野川、井路川が網の目のように事細かく流れ、田畑や小舟の便に利用されました。この土地に京阪電車が走り、大阪に行って働く人達の町へ。

千林商店、ダイエーをはじめ、街にはニチイ、長崎屋の大店の進出。

平太の渡しから豊里大橋へ。地下鉄、国道1号、大阪内環状線、阪神高速などが発展したが、代わりに江野川や井路川がなくなりました。

昭和初期～井路川の思い出

どこから流れてきたのだろうか？どっちの方へ流れていったのだろうか？

かつて淀川が上辻霊園のところで水が樋の所を通過して、清水千林を通過して、ゆうゆうと流れていた道筋がそのまま残っているのがつかしい。上辻霊園の所から北清水、貝脇、千林になり左へ曲がって清水小学校の方へ行く。

清水小学校へ通っていた頃、夏は学校から水泳をするために淀川の方へ行った。運河と言われていた川で、整備されていたきれいな川だった。

その後、高速道路が出来ている。だんだんと変わってきている。千林小学校は京阪千林のあたりで、人がふえて古市と清水の小学校に分かれる。うちの父も千林小学校に通っていたそうだ。

淀川がこの墓のところあたりで、平地に流れて河内平野になってゆく。

江戸時代終わり頃『姓』をつけるのにいろいろ考えたらしいが、うちのおじいさんは樋のそばにあった家だから樋口という姓にした。また、もう一軒は樋の上という姓にしている。今もその人々は同じ辺りにいる。

戦時中は、家の座敷の床を上げた地下に防空壕を掘って、空襲のサイレンが鳴ったら、あわてて逃げ込んだものだった。

息子が生まれて間なしだったので、大変だったが、この辺は被害がなかったもので、まだましだった。

【大正9年生】

江野川

正式名称は樋管統一水路

江野川の正式名称は樋管統一水路と言う。

昭和以前の旭区は、純農村地帯だった。田畑の灌漑用水として淀川の堤防に樋門・樋管を設け、農業用水の取り込みをしていた。しかし、これらが老朽化すると堤防の安全に影響を与え、補修費用も多額に上がることから、それらを統一し、一ヶ所から取水して、堤内用水路で田畑に配分する計画が建てられた。

枚方市字伊加賀地先に新合同樋門を建設し、上庄・出口・二十箇・茨田・佐太・八雲・五箇・榎並の8用水樋をまとめ、さらに流末の予備水路として在来の榎並用水の一支江野樋の地点を起点に、城北運河(現:城北川)へ放流する計画であった。

この事業は昭和4年(1929)より着工され、昭和9年(1934)に通水が完了した。

本流は樋管統一水路、予備水路は分岐点から中宮2丁目と中宮3丁目の境迄を江ノ川、城北運河までを井路として管理されていた。

昭和～江野川と土地区画整理事業

昭和に入ると大阪市は、^{ダイオオサカ}大大阪と称される程工業・商業が発達し、それらに関わる人々の住居地帯の整備のため、土地区画整理事業が始まった。

旭区の中宮地区は、榎並の荘土地区画整理事業として昭和7年(1932)より工事が始まり、昭和17年(1942)に完成。今の様な碁盤目の町が完成した。

それまで農業用水だった江野川は、雨水・悪水の排出路として利用目的が変更された。ちなみに、江野公園はこの区画整理事業の一つとして昭和12年(1937)にできた。

大阪で万博(昭和45年(1970))が開かれることとなり、交通網の整備のため高速道路が計画された。そ



写真■昭和42年頃の江野川
中宮4丁目の城北公園通りから北側を撮影



写真■枚方市の淀川沿いにある合同樋門跡のプレート



写真■枚方市の水面回廊にある合同樋門の記念プレート

の予定地として、江野川の上を使用することになった。

しかし、道路予定地に沿って大宮西小学校・大宮中学校・大阪工業大学などの教育施設が並んでいるため、環境問題として反対運動が起きた。話し合いが続けられ、高架橋の高さを嵩上げし、さらにプラスチック板の遮音壁を造ること、及び江野川跡を緑陰道路化することで話し合いがついた。

結局守口線は万博には間に合わず、昭和46年(1971)に供用開始となった。

江野川は昭和49年(1974)に完全に暗渠化され、江野川筋遊歩道(守口市外島町から旭区民センターまでの約3.5キロメートル)として整備され、現在に至る。



写真上右2点とも■唯一残る江野川に架かっていた「大和橋」の2つ親柱(大阪工業大学正門の前)



写真■江野川筋遊歩道